



出店者と来場者が楽しそうに交流する会場

「うみべの日曜市」が新たな体制で再スタート

7月19日(日)、「うみべの日曜市」が開催され、31店舗が出店し、多くの来場者でにぎわいました。今年3月に16年の歴史に幕を下ろした「海辺の日曜市」を復活できないかという思いから、一般社団法人まちのデザイン室が再スタートしたものです。同団体の小谷優美代表理事と増田律子理事は、「町の人たちが顔を合わせ、買い物や交流をする場だった。大切な場を存続させていくために、関わる方々とともに持続可能な形を見つけていければ」と話しました。新たにサポーター制度(※)を設けたほか、小中学生が挑戦できる場づくりもできたらとのこと。今後も毎月第3日曜日に開催が予定されています。

絵手紙体験に参加した弘瀬こみさんは、「8月が誕生日の友だちにひまわりを描いた。初めてだったけどうまく描けてよかった」と笑顔で話しました。※年会費という形で「うみべの日曜市」を誰でも応援できる新たな制度。



やぐらを囲み盆踊りを楽しむ大勢の来場者

「シーサイドギャラリー」1万人が夏の熱気に踊る

8月15日(土)、黒潮町の夏祭り「シーサイドギャラリー」が入野の浜で開催され、約1万人が来場しました。

午前9時から「キス釣り大会」が行われ、午後5時40分頃からは大方中学校吹奏楽部やフラダンス、幡多舞人によるよさこい、ダンススクールなど5団体がステージを披露し、観客は砂浜に座り、和やかな雰囲気を楽しみました。

午後7時から盆踊りが始まり、多くの人が笑顔でやぐらの周りを踊りました。四万十市から来場した藤川真由美さんは「毎年花火大会には来ていたけれど、盆踊りに参加したのは初めて。見ていたら楽しそうで、つい踊りたくなって参加した。開放感がすごくあって、また来年も踊りたい」と話しました。最後には約1,200発の花火が打ち上げられ、海をバックに上がる花火に歓声が上がりました。

町長メッセージ

敬老の日 に 際 して



敬老の日を迎えるにあたり、皆さまのご長寿を心よりお祝い申し上げます。また、長年にわたり黒潮町の発展と地域づくりにご尽力いただいておりますことに、改めて深く感謝申し上げます。

今年度、100歳以上とされる方は8月1日現在で21名おられ、そのうち、100歳を迎えられた方は9名でした。

皆さまが過ごされてきた長い歩みの中には、幾多の出来事や変化があり、それぞれの時代を懸命に生き抜いてこられた歴史があります。そこで培われた豊かな知識や経験、周囲の方々との温かなつながりは、地域にとって大切な財産であり、次の世代へと受け継がれる大きな力となっています。これまで培われた経験や温かな思いは、地域にとって大きな支えとなっています。これからも皆さまが健康で、安心して毎日を過ごされ、笑顔と生きがいにあふれた生活を送られますことを心より願っております。

結びに、皆さまのますますのご健康とご多幸をお祈り申し上げ、敬老の日のお祝いの言葉といたします。

黒潮町長 大西 勝也